

各位

武雄・杵島地区農業指導連絡協議会
杵島農業振興センター

「稲作情報（第13号）」について（送付）

このことについて、下記のとおり「稲作情報（第13号）」を送付しますので、業務の参考にしてください。

1. 気象概況

月	半旬	平均気温			最高気温			最低気温			降水量			日照時間		
		平年 (°C)	R5 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R5 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R5 (°C)	平年差 (°C)	平年 (mm)	R5 (mm)	平年比 (%)	平年 (hr)	R5 (hr)	平年比 (%)
8月	1	28.3	31.1	2.8	33.4	37.7	4.3	24.5	26.2	1.7	29.3	0.0	0	35.5	55.0	155
	2	28.2	29.7	1.5	33.3	34.2	0.9	24.5	26.8	2.3	30.0	70.5	235	34.7	22.1	64
	3	28.0	28.2	0.2	33.0	33.5	0.5	24.4	24.3	-0.1	32.8	0.0	0	32.8	49.1	150
	4	27.6			32.6			24.1			35.0			31.4		
	5	27.1			32.2			23.5			37.9			30.1		
	6	26.4			31.5			22.8			48.6			34.3		

○8月3半旬の平均気温は平年並み、降雨はなく多照傾向で推移した。

2. 水稻情報田の生育状況（調査日：8月15日）

項目 品種(設置場所)	年次	草丈 cm	茎数 本/m ²	主稈 出葉数L	葉色 SPAD	概要
さかびより 6/22 移植 武雄市橋町	本年値	74.4	423	13.2	35.0	<ul style="list-style-type: none"> 草丈は平年より低く、茎数は多い。 主稈出葉数は平年並み。 葉色は平年並み。 ※幼穂形成始期 8月6日頃 ※幼穂長10~12mm程度
	平年値	78.6	401	13.3	34.9	
	平年比	95	105	-0.1	+0.1	

※さかびよりの平年値はH21~R4の平均値。 耕種概要は稲作情報第9号参照

3. 今後の管理

(1) 夢しずく（普通期）

○現在、出穂期から穂揃期である。

- ・幼穂形成期から穂揃期にかけては要水量が増加する時期である。必ず湛水管理を徹底する。
- ・穂揃期以降は間断灌水を行い、土壌を固めると共に根の活性化を図る。（土が柔らかい圃場では、間断灌水の断水期間を長めにし土を固める。）
- ・初期生育量が十分に確保できずに、幼穂形成期以降草丈が伸長しうっぺいした圃場を散見する。また、葉色が濃い圃場では、上位葉に「いもち病」を確認しているのので、臨機防除を行う。

(2) 普通期水稻

○現在、生育ステージは幼穂形成期～穂孕期である。

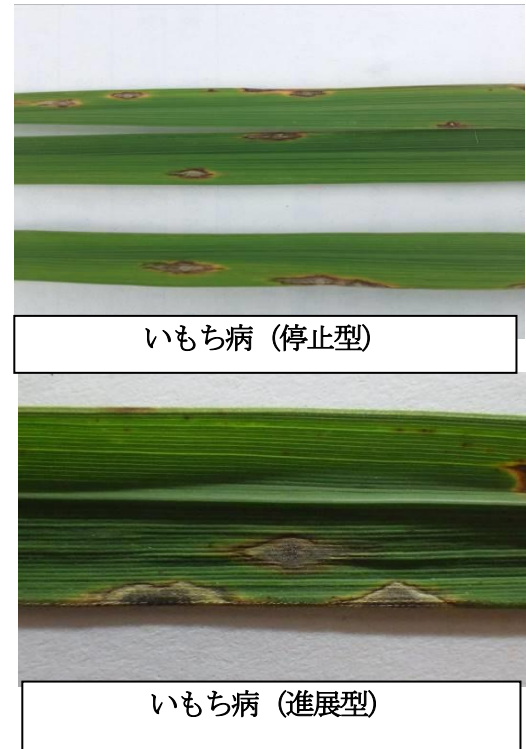
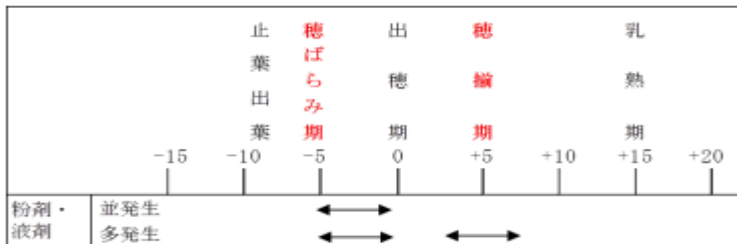
- ・水管理は夢しずく同様。
- ・台風6号通過時において葉先の裂傷や葉の黄化褐変等が散見され、葉色がさめたように見える。
- ・葉がうっぺいし生育旺盛な圃場では、「葉いもち病」の病斑を確認している。上位葉に病斑を確認したら発生程度等によっては穂孕期による薬剤防除を行う。いもち病常発生地帯では、「葉いもち病」の発生を確認しているのので、穂肥施用に際しては穂肥診断基準に基づいて適期適量施用する。なお、穂肥診断基準は、稲作情報N011を参照する。

(3) 病害虫対策

1) いもち病

- ・ 葉いもちの発生がみられる圃場では、穂ばらみ期の防除を徹底する。 発生が多いと予想される場合（上位3葉に葉いもち病の病斑を確認した時）には穂揃い期にも臨機防除を行う。薬剤の使用にあたっては、使用時期や回数等の農薬の登録情報に注意する。
- ・ 窒素過多は発生を助長するので、適切な肥培管理を行なう。

【穂いもちの防除時期】



2) ウンカ類

- ・ 本年は、6月30～7月3日頃、7月7日～9日頃にトビイロウンカの飛来が確認されている。8月の気温は平年より高いと予想されており、今後増殖する恐れがあるため、本田防除の適切な実施が極めて重要である。なお、圃場の発生状況（移植時期や品種、箱施用剤の種類、施用の有無、圃場の場所等）によってウンカ類の発生量や増殖率が異なるため、圃場での発生状況に注意する。
- ※ なお、トビイロウンカにおける各世代の発生予測は、その後の気温等により若干変わるので、最新データは、佐賀県農業技術防除センターHP等を参照する。

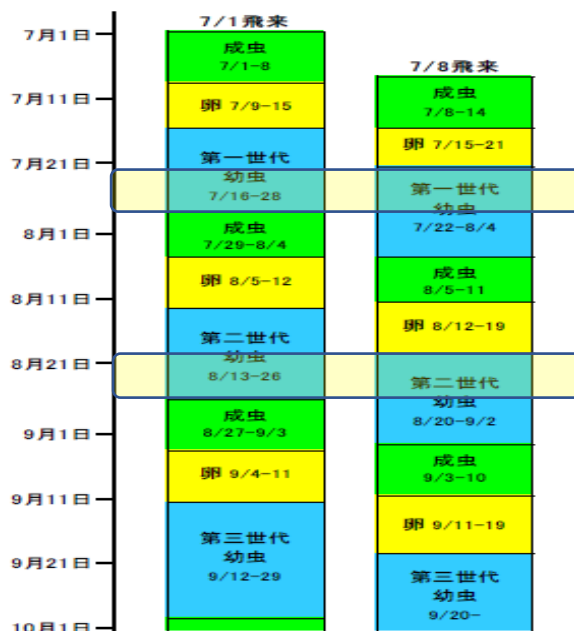


図1 トビイロウンカ各世代の発生予測（第2版、2023年7月25日作成）

1. 6月30日～7月3日頃(図では7月1日)、7月7日～9日(図では7月8日)の飛来虫を起点とし、佐賀市川町町の気温データより算出した有効積算温度(7月25日以降は平年値)を基に作成した。
2. 田植え時期、品種等の違いによって、本虫の発生量は異なるので、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、防除対策を講じる。
3. 今後の気象経過等に応じて、本図は随時、更新するので、最新情報は、農業技術防除センターのホームページで確認する。

《参考 ウンカ類の25株払い落とし調査結果》

調査日	セジロウンカ		トビイロウンカ		ヒメトビウンカ		備考
	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	
8月15日							
6/8播種	12	6	1	0	13	1	さがびより(白石町) ※ゼクサロン系無施用、7/25スタークル
6/17移植	72	6	1	2	31	2	夢しずく(江北町) ※ゼクサロン系無施用
6/20移植	0	0	0	0	0	0	ヒノヒカリ(白石町)
6/22移植	1	0	0	0	2	2	さがびより情報田 8/4ヘリ防除
6/24移植	0	0	0	0	1	2	さがびより(白石町)

3) 斑点米カメムシ

- 「夢しずく」は出穂期を迎えており、斑点米カメムシ類を中心とした乳熟期（穂揃い後10日目頃）の防除を徹底して、斑点米カメムシの被害防止を図る。

発生が多い圃場では穂揃い期（出穂後5日目頃）と乳熟期の2回防除を実施する。

★多発生の目安 ⇒ 2.0回のすくいとり調査でカメムシが5頭以上の場合（穂揃期～乳熟期）

- 出穂10日前までの畦畔除草は、耕種的防除の観点から効果的である。
カメムシはイネ科雑草を好むことから畦畔だけでなく圃場内に発生している雑草の除草も併せて行うよう努める。畦畔を100m歩いて、カメムシが3頭いたら、要注意である。

4) 紋枯病

- 幼穂形成期以降は、各品種とも病気に対する抵抗力が弱まる。
今後気温が高くなることから、紋枯病が一気に進展する可能性があるため発生には十分注意する。
- 病斑が上位葉の葉鞘に進展する前の防除が効果的である。
(液剤、粉剤の場合は出穂10日～20日前の防除を目安とする)



紋枯病

5) 干ばつ（強風）対策

○本年は気温が高く日中、乾いた熱風が続く日がある。

現在、普通期の水稻の生育ステージは、最も用水を必要とする幼穂形成期から穂孕み期、そして穂揃期であるため、常時湛水するよう（圃場が白乾しないようにする）こまめな用水管理に努める。

令和5年産 水稲作付期間気象図
アメダス観測値(白石)

